

Do! エコドライブ

プロドライバーに続け!

CO₂削減で
地球温暖化
をくいとめます。

排出ガスを
減らして
大気汚染を
抑えます。



エコドライブ10のすすめ

晴れ渡った空、白い雲、豊かな緑、そんな爽やかな良い風景は、空氣がきれいでこそ見られるもの。
エコドライブ10のすすめを実践する事は、大気環境改善と地球温暖化防止につながります。
先進的な事業者(プロドライバー)は、すでにエコドライブに取り組んでいます。
マイカーもこれに続き、Do!エコドライブ!

エ

エンジンブレーキ
を使いましょう。

エ

エアコンの使用は
控えめに。

ふ

ふんわりアクセル
eスタート。

う

ウォームアップは
適切に。

けい

計画的な
ドライブを。

エエふうけいには、あいたいね。

に

荷物は必要な
モノだけを。

あ

アイドリング・
ストップ。

い

違法駐車は
やめましょう。

たい

タイヤの空気圧
チェック。

ね。

燃費の良い加速
の少ない運転を。

九都県市あおぞらネットワーク <http://www.9taiki.jp/>

【九都県市首脳会議】

埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市

九都県市はエコドライブを推進しています。



エコドライブステッカー

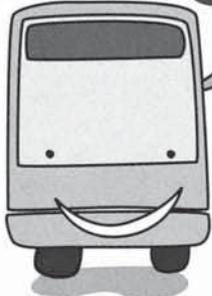


エコドライブ10のすすめ

「エエふうけいに、あいたいね。」

エコドライブは、自動車の運転に起因して排出される大気汚染物質の削減やCO₂の削減になり、さらに燃費向上や交通安全にもつながるなど、すぐれた自動車の運転方法です。

エコドライブ10のすすめの頭文字をつなげると「エエふうけいにあいたいね。」
青い空を思いながら、実践してみませんか？



エ

エンジブレーキを使いましょう。

「停止位置を予測して、早めのアクセルオフ」

アクセルから足を離すと燃料がカットされ、燃料の消費を抑えることができます。先の交通状況を見て停止する位置がわかったらアクセルから足を離して、エンジブレーキで減速しましょう。日頃から自分の車のエンジブレーキの利き具合を把握しておく事も大切です。

に

荷物は必要なモノだけを。

「不要な荷物を積まないようにしましょう」

車が重くなると、加速時にかかる抵抗が大きくなるなど、燃料消費が多くなる原因となります。ゴルフバッグやキャンプ用品などは、必要な時以外は車から降ろすように心がけましょう。

エ

エアコンの使用は控えめに。

「エアコンの温度設定はこまめに調節」

エアコンの使用は多くの燃料を消費します。設定温度が外気と同じであっても、スイッチがONになっていると燃料を使いますので、気候の良い時には窓を開けて外気を入れるなどの工夫をしましょう。

あ

アイドリング・ストップ。

「無用なアイドリングをやめましょう」

停止していてもエンジンをかけていれば、燃料は消費されます。ある程度の時間停止する事がわかっている時や、発進のタイミングが分かりやすい場所ではアイドリング・ストップをしましょう。

ふ

ふんわりアクセル eスタート。

「発進は一呼吸おいて徐々にアクセル」

発進時はもっとも多くの燃料を消費します。発進する時は、ブレーキから足を離したら、一呼吸おくつもりで、ゆっくりアクセルに足を乗せます。アクセルは徐々に踏み込み、なめらかに加速しましょう。

い

違法駐車はやめましょう。

「渋滞を招くので、違法駐車はやめましょう」

交通の妨げになる場所での駐車は交通渋滞をもたらす余分な排出ガスを出させる原因となります。マナーを守り、地球環境も守りましょう。

う

ウォームアップは適切に。

「エンジンをかけたらなるべく早く出発」

エンジンを暖める間のアイドリングにも燃料を消費します。現在の車では長時間の暖機は必要ありませんので、エンジンをかけたらなるべく早く出発しましょう。

たい

タイヤの空気圧チェック。

「タイヤの空気圧を適正に保つなど、確実な点検・整備を実施しましょう」

タイヤの空気圧が不足すると、より多くの燃料を消費します。タイヤの空気は時間が経つと自然に抜けていきます。見た目ではわかりにくいので、ガソリンスタンドなどで、定期的にチェックする習慣をつけましょう。

けい

計画的なドライブを。

「出かける前に渋滞等の情報をチェックしましょう」

余計な距離を走らないために目的地までの経路を確認してから出かけましょう。燃費を悪化させないために、渋滞情報もチェックしてから出かけましょう。

ね

燃費の良い加減速の少ない運転を。

「車間距離は余裕をもって、交通状況に応じた安全な定速走行をしましょう」

加減速の繰り返しは燃料消費を増加させます。できるだけアクセルの踏み加減を一定に保つ走行を心がけましょう。先の信号や先行車の挙動、駐車車両や工事箇所の有無など、道路状況をよく見て早めに対処しましょう。

公共交通が便利な場所では、電車、バスを積極的に利用しましょう。

